

哲学・思想専攻

専攻共通

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
02DBS19	哲学・思想プロジェクト演習(1)A	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2023年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBS20	哲学・思想プロジェクト演習(1)B	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2023年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBS21	哲学・思想プロジェクト演習(2)A	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2024年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBS22	哲学・思想プロジェクト演習(2)B	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2024年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT21	哲学・思想プロジェクト演習(3)A	2	1.0	1-5	春学期	応談	橋本 康二, 井川 義次, 津崎 良典, 檜垣 良成, 五十嵐 沙千子, 千葉 建, 小野 基, 木村 武史, 志田 泰盛, 土井 裕人, 保呂 篤彦, 吉水 千鶴子	受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2025年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT22	哲学・思想プロジェクト演習(3)B	2	1.0	1-5	秋学期	応談	橋本 康二, 井川 義次, 津崎 良典, 檜垣 良成, 五十嵐 沙千子, 千葉 建, 小野 基, 木村 武史, 志田 泰盛, 土井 裕人, 保呂 篤彦, 吉水 千鶴子	受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2025年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT23	哲学・思想プロジェクト演習(4)A	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2021年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT24	哲学・思想プロジェクト演習(4)B	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2021年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT25	哲学・思想プロジェクト演習(5)A	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2022年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)
02DBT26	哲学・思想プロジェクト演習(5)B	2	1.0	1-5				受講生各自が哲学・倫理学・宗教学に関する研究計画を自主的に立て、それを遂行し、その成果を内外の研究会や学会で発表する。	2022年度より4年おきに開講。 対面(オンライン併用型)

哲学分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
02DBG50	哲学原論演習(3)A	2	1.0	1・2				毎回の授業では、1名の受講生が、自分で研究テーマを設定し、ハンドアウトを準備して配布した上で、1時間程度の発表を行う(他の哲学原論演習で発表した履修者は別内容で発表しなければならない)。その内容を受けて、担当教員と全受講生によるディスカッションをおこなう。	分析哲学を専攻する大学院生に限る 西暦偶数年度開講。 OABAA04と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBG51	哲学原論演習(3)B	2	1.0	1・2				毎回の授業では、1名の受講生が、自分で研究テーマを設定し、ハンドアウトを準備して配布した上で、1時間程度の発表を行う(他の哲学原論演習で発表した履修者は別内容で発表しなければならない)。その内容を受けて、担当教員と全受講生によるディスカッションをおこなう。	分析哲学を専攻する大学院生に限る 西暦偶数年度開講。 OABAA05と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBG54	現代哲学I演習(3)A	2	1.0	1・2				英米系の現代哲学(分析哲学)の代表的な著作・論文を読みながら、現代哲学の諸問題を検討する。取り上げる著作・論文は年度によって異なる。	西暦偶数年度開講。 OABAA24と同一。 対面(オンライン併用型)

02DBG57	現代哲学II演習(3)A	2	1.0	1・2			本授業科目は演習科目であり、「知覚の問題」をテーマとし、その問題を概観しうる諸論文を、分析哲学における手法で検討することにより、その問題の全体的な理解と諸解決策の検討を目標とするものである。そしてその目標のために、本授業では、「知覚の問題」とは何か、「知覚の問題」と呼ばれるものに対して提案されている解決策にはどのようなものがあるか、等を、英語文献の輪読により確認する。そして、それらを理解した上で、それぞれの解決策の問題点について議論する。	西暦偶数年度開講。 OABAA34と同一。 対面
02DBG58	現代哲学II演習(3)B	2	1.0	1・2			本授業科目は演習科目であり、「知覚の問題」をテーマとし、その問題を検討している個別例としてのフィッシュの著作を検討することによって、その問題の理解と諸解決策の検討を目標とするものである。そしてその目標のために、本授業では、「知覚の問題」についての考察が多数あるフィッシュの著作の中でも「知覚の問題」の全体像を明らかにする意図で書かれた『知覚の哲学入門』を、分析哲学における手法を念頭に置きながら輪読する。そして、そのことによって、フィッシュが「知覚の問題」についてどのように理解しているのかを確認し、「知覚の問題」についてのフィッシュの見解について議論する。	西暦偶数年度開講。 OABAA35と同一。 対面
02DBG61	東洋哲学(3)A	1	1.0	1・2			講義形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について教授する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯1に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABAA50と同一。 対面
02DBG62	東洋哲学(3)B	1	1.0	1・2			講義形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について教授する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯2に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABAA51と同一。 対面
02DBG65	東洋哲学演習(3)A	2	1.0	1・2			演習形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について解明する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯1に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABAA54と同一。 対面
02DBG66	東洋哲学演習(3)B	2	1.0	1・2			演習形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について解明する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯2に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦偶数年度開講。 OABAA55と同一。 対面
02DBG69	西洋哲学I(3)A	1	1.0	1・2			西洋近代哲学の古典を読みながら、西洋理論哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得することを旨とする。そのために、カントの『純粋理性の批判』周辺のテキストを読み、理性と経験についての理解を深めることを通じて理論哲学の諸問題と対決する。	西暦偶数年度開講。 OABAA70と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBG70	西洋哲学I(3)B	1	1.0	1・2			西洋近代哲学の古典を読みながら、西洋理論哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得することを旨とする。そのために、カントの『純粋理性の批判』周辺のテキストを読み、物自体と現象についての理解を深めることを通じて理論哲学の諸問題と対決する。	西暦偶数年度開講。 OABAA71と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBG73	西洋哲学I演習(3)A	2	1.0	1・2			演習形態で西洋の実践哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得するために、西洋哲学の最重要古典の一つであるカントの『実践理性の批判』を読み、認識能力と欲求能力との区別についての理解を深めるとともに実践哲学の諸問題を検討する。	西暦偶数年度開講。 OABAA74と同一。 対面(オンライン併用型)

02DBK74	西洋哲学I演習(3)B	2	1.0	1・2					演習形態で西洋の実践哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得するために、西洋哲学の最重要古典の一つであるカントの『実践理性の批判』を読み、傾向性と純粋理性との区別についての理解を深めるとともに実践哲学の諸問題を検討する。	西暦偶数年度開講。 OABAA75と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK77	西洋哲学II演習(3)A	2	1.0	1・2					近世ヨーロッパの哲学書を読解するうえで必要となる1)語学力、2)哲学・哲学史にかかわる知識、3)読解を通して考察したことを文章にする技法の習得を目指す。そのために、近世ヨーロッパ哲学の基本文献をラテン語原典で講読する。本授業は演習形式で進められるため、受講生は、事前の一次文献と二次文献の徹底した予習が求められ、かつ、授業中には積極的な発言が求められる。	西暦偶数年度開講。 OABAA84と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK50	哲学原論演習(4)A	2	1.0	1・2					毎回の授業では、1名の受講生が、自分で研究テーマを設定し、ハンドアウトを準備して配布した上で、1時間程度の発表を行う(他の哲学原論演習で発表した履修者は別内容で発表しなければならない)。その内容を受けて、担当教員と全受講生によるディスカッションをおこなう。	分析哲学を専攻する大学院生に限る 西暦奇数年度開講。 OABAA06と同一。 2025年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
02DBK51	哲学原論演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	応談	橋本 康二		毎回の授業では、1名の受講生が、自分で研究テーマを設定し、ハンドアウトを準備して配布した上で、1時間程度の発表を行う(他の哲学原論演習で発表した履修者は別内容で発表しなければならない)。その内容を受けて、担当教員と全受講生によるディスカッションをおこなう。	分析哲学を専攻する大学院生に限る 西暦奇数年度開講。 OABAA07と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK54	現代哲学I演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	火6	橋本 康二		英米系の現代哲学(分析哲学)の代表的な著作・論文を読みながら、現代哲学の諸問題を検討する。取り上げる著作・論文は年度によって異なる。	西暦奇数年度開講。 OABAA26と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK57	現代哲学II演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	木2	横山 幹子		本授業科目は演習科目であり、「知覚の問題」をテーマとし、その問題を検討している個別例としてのフィッシュの著作を検討することによって、その問題の理解と諸解決策の検討を目標とするものである。そしてその目標のために、本授業では、「知覚の問題」についての考察が多数あるフィッシュの著作の中でも「知覚の問題」の全体像を明らかにする意図で書かれた“Philosophy of perception: A contemporary introduction”の第2版の第2部を中心に輪読する。そして、そのことによって、フィッシュが知覚の哲学と心についての諸科学との関係についてについてどのように考えているのかを確認し、それについてのフィッシュの見解について議論する。	西暦奇数年度開講。 OABAA36と同一。 対面
02DBK58	現代哲学II演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	木2	横山 幹子		本授業科目は演習科目であり、「知覚の問題」をテーマとし、その問題に対する解決策の一つである「選言説」に焦点を当て、その問題の理解と諸解決策の検討を目標とするものである。そしてその目標のために、本授業では、分析哲学における手法踏まえたうえで、関係する英語文献を輪読することによって、「知覚の問題」に対して提案されている解決策の中の一つである「選言説」の内容を詳細に理解する。また、その問題に対するパトナムの見解の変化も確認する。そして、それらを理解したうえで、解決策としての「選言説」の妥当性について議論する。	西暦奇数年度開講。 OABAA37と同一。 対面
02DBK61	東洋哲学(4)A	1	1.0	1・2	春AB	金4	井川 義次		講義形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の終書解釈について教授する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯3に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABAA52と同一。 対面
02DBK62	東洋哲学(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	金4	井川 義次		講義形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の終書解釈について教授する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて解明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯4に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABAA53と同一。 対面

02DBK65	東洋哲学演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	金5	井川 義次	演習形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について説明する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて説明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯3に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABAA56と同一。 対面
02DBK66	東洋哲学演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	金5	井川 義次	演習形式で東アジア文化圏に決定的な影響を与えた中国哲学のうち儒教の体系化を方向づけた宋学の経書解釈について教授する。とりわけ朱熹による「四書」解釈について関連文献を深く読解することを通じて説明する。本講義では朱熹の『論語』理解を『朱子語類』の『論語』泰伯4に対する言説を取り上げ、一言一句おろそかにすることなく、各種文献との関係のうちから理解することを目標とする。	西暦奇数年度開講。 OABAA57と同一。 対面
02DBK69	西洋哲学I(4)A	1	1.0	1・2	春AB	水1	檜垣 良成	西洋近代哲学の古典を読みながら、西洋理論哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得することを旨とする。そのために、カントの『純粋理性の批判』周辺のテキストを読み、感性的直観と純粋知性概念についての理解を深めることを通じて理論哲学の諸問題と対決する。	西暦奇数年度開講。 OABAA72と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBK70	西洋哲学I(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	水1	檜垣 良成	西洋近代哲学の古典を読みながら、西洋理論哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得することを旨とする。そのために、カントの『純粋理性の批判』周辺のテキストを読み、純粋理性のアンチノミーと超越論的哲学についての理解を深めることを通じて理論哲学の諸問題と対決する。	西暦奇数年度開講。 OABAA73と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBK73	西洋哲学I演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	火2	檜垣 良成	演習形態で西洋の実践哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得するために、西洋哲学の最重要古典の一つであるカントの『実践理性の批判』を読み、仮言的命法と定言的命法との区別についての理解を深めるとともに実践哲学の諸問題を検討する。	西暦奇数年度開講。 OABAA76と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK74	西洋哲学I演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	火2	檜垣 良成	演習形態で西洋の実践哲学についての知識と哲学のテキストを読む力および問題を検討する力を修得するために、西洋哲学の最重要古典の一つであるカントの『実践理性の批判』を読み、他律と自律との区別についての理解を深めるとともに実践哲学の諸問題を検討する。	西暦奇数年度開講。 OABAA77と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBK77	西洋哲学II演習(4)A	2	1.0	1・2	春C	火5,6	津崎 良典	近世ヨーロッパの哲学書を読解するうえで必要となる1)語学力、2)哲学・哲学史にかかわる知識、3)読解を通じて考察したことを文章にする技法の習得を目指す。そのために、近世ヨーロッパ哲学の基本文献をラテン語原典で講読する。本授業は演習形式で進められるため、受講生は、事前の一次文献と二次文献の徹底した予習が求められ、かつ、授業中には積極的な発言が求められる。	西暦奇数年度開講。 OABAA86と同一。 対面(オンライン併用型)

倫理学分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
02DBH50	倫理学原論(3)A	1	1.0	1・2				大学院生の研究能力の向上および研究テーマの明確化を目的として、大学院生による研究発表とそれをめぐるディスカッションを行う。受講者がそれぞれ行った発表を、自分の長期的な研究計画のなかに位置づけて、討論の成果も含めて効果的に活用できるようにする。	西暦偶数年度開講。 OABAA80と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBH51	倫理学原論(3)B	1	1.0	1・2				大学院生の研究能力の向上および研究テーマの明確化を目的として、大学院生による研究発表とそれをめぐるディスカッションを行う。受講者がそれぞれ行った発表を、自分の長期的な研究計画のなかに位置づけて、討論の成果も含めて効果的に活用できるようにする。倫理学原論(1)Aで発表した履修者は別内容で発表すること。	西暦偶数年度開講。 OABAA81と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBH54	現代倫理学演習(3)A	2	1.0	1・2					西暦偶数年度開講。 OABAAE4と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DBH55	現代倫理学演習(3)B	2	1.0	1・2					西暦偶数年度開講。 OABAAE5と同一。 オンライン(同時双方向型)

02DBH58	西洋倫理思想史演習(3)A	2	1.0	1・2					倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を読解する。テキスト理解に必要な基本的概念、思想的な背景知識、語学力の習得を目指す。テキストとしてはカント『道徳の形而上学』の「徳論への序論」の前半を取り上げる予定である。	西暦偶数年度開講。 OABAAG4と同一。 対面
02DBH59	西洋倫理思想史演習(3)B	2	1.0	1・2					倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を読解する。テキスト理解に必要な基本的概念、思想的な背景知識、語学力の習得を目指す。テキストとしてはカント『道徳の形而上学』の「徳論への序論」の後半を取り上げる予定である。	西暦偶数年度開講。 OABAAG5と同一。 対面
02DBH64	日本倫理思想史(3)A	1	1.0	1・2					日本倫理思想史上で重要な文献を精読することで、典拠に当たりながらテキストを読み解く能力を身につけることを目指す。春学期は丸山眞男の『忠誠と反逆—転換期日本の精神史的位相』（筑摩書房、1998年）をテキストとして、演習形式で講読する。	西暦偶数年度開講。 OABAAH0と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBH65	日本倫理思想史(3)B	1	1.0	1・2					日本倫理思想史上で重要な文献を精読することで、典拠に当たりながらテキストを読み解く能力を身につけることを目指す。秋学期は和辻哲郎著・河部直編『初稿倫理学』（筑摩書房、2017年）をテキストとして、演習形式で講読する。	西暦偶数年度開講。 OABAAH1と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBL50	倫理学原論(4)A	1	1.0	1・2					大学院生の研究能力の向上および研究テーマの明確化を目的として、大学院生による研究発表とそれをめぐるディスカッションを行う。受講者がそれぞれ行った発表を、自分の長期的な研究計画のなかに位置づけて、討論の成果も含めて効果的に活用できるようにする。倫理学原論(1)A、倫理学原論(1)Bで発表した履修者は別内容で発表すること。	西暦奇数年度開講。 OABAAC2と同一。 2025年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)
02DBL51	倫理学原論(4)B	1	1.0	1・2					大学院生の研究能力の向上および研究テーマの明確化を目的として、大学院生による研究発表とそれをめぐるディスカッションを行う。受講者がそれぞれ行った発表を、自分の長期的な研究計画のなかに位置づけて、討論の成果も含めて効果的に活用できるようにする。倫理学原論(1)A、倫理学原論(1)B、倫理学原論(2)Aで発表した履修者は別内容で発表すること。	西暦奇数年度開講。 OABAAC3と同一。 2025年度開講せず。 オンライン(同時双方向型)
02DBL54	現代倫理学演習(4)A	2	1.0	1・2	春C	木4,5	太田 紘史		自由意志および道徳的責任が、決定論や非決定論といった形而上学的脅威とどのように衝突しうるのかについて考える。日本語テキストの輪読を通じて係争点を学ぶことを基本として、適宜、英語文献の読解トレーニングを行う。	西暦奇数年度開講。 OABAAC6と同一。 対面
02DBL55	現代倫理学演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	金3	太田 紘史		人工知能に関わる多様な倫理的問題について検討する。授業は日本語テキストの輪読とディスカッションの形で進め、適宜英語文献を用いた演習も行う。	西暦奇数年度開講。 OABAAC7と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBL58	西洋倫理思想史演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	木2	千葉 建		倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を読解する。テキスト理解に必要な基本的概念、思想的な背景知識、語学力の習得を目指す。テキストとしてはカント『道徳の形而上学』「倫理学的原理論」の第一部を取り上げる予定である。	西暦奇数年度開講。 OABAAG6と同一。 対面
02DBL59	西洋倫理思想史演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	木2	千葉 建		倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を読解する。テキスト理解に必要な基本的概念、思想的な背景知識、語学力の習得を目指す。テキストとしてはカント『道徳の形而上学』「倫理学的原理論」の第二部を取り上げる予定である。	西暦奇数年度開講。 OABAAG7と同一。 対面
02DBL64	日本倫理思想史(4)A	1	1.0	1・2	春AB	木3	常 瀨琳		日本倫理思想史上で重要な文献を精読することで、典拠に当たりながらテキストを読み解く能力を身につけることを目指す。春学期は丸山眞男の『忠誠と反逆—転換期日本の精神史的位相』（筑摩書房、1998年）をテキストとして、演習形式で講読する。	西暦奇数年度開講。 OABAAH2と同一。 対面
02DBL65	日本倫理思想史(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	木3	常 瀨琳		日本倫理思想史上で重要な文献を精読することで、典拠に当たりながらテキストを読み解く能力を身につけることを目指す。秋学期は和辻哲郎著・河部直編『初稿倫理学』（筑摩書房、2017年）をテキストとして、演習形式で講読する。	西暦奇数年度開講。 OABAAH3と同一。 対面

宗教学・比較思想学分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
02DBJ32	宗教哲学(3)B	1	1.5	1-5				近代ないし現代の宗教哲学に関する文献を講読し、解説を加えつつ、受講者とともにその内容について議論する。	教室の広さや受講希望者数によっては受講者数の上限を設定することもある 2025年度開講せず。

02DBJ60	宗教学I(3)A	1	1.0	1・2			宗教学の中における神話研究の問題を取り上げる。特に、歴史と神話の関係に関わる諸問題を考察する。継承される神話形式と生成する神話との相互関係、現代社会における文字化された神話と口伝承の神話との相互関係などを取り上げる。	西暦偶数年度開講。 OABAAL0と同一。 対面
02DBJ61	宗教学I(3)B	1	1.0	1・2			宗教学における神話研究の問題を取り上げる。特に、政治・権力と神話の関係に関わる諸問題を考察する。神話と象徴は政治権力に権威を与えるとともに、その権力の行使に正当性を付与する。また、社会における諸問題を隠蔽することもある。これらの諸問題を取り上げる。	西暦偶数年度開講。 OABAAL1と同一。 対面
02DBJ64	宗教学I演習(3)A	2	1.0	1・2			宗教現象を多角的に取り上げる視点を身に付け、多様な宗教現象に関する資料の読解力を身に付ける。宗教心理学に関連する古典的著作を読み解く。ジェイムズ、フロイト、ユングなどの著作を取り上げる。	西暦偶数年度開講。 OABAAL4と同一。 対面
02DBJ65	宗教学I演習(3)B	2	1.0	1・2			宗教現象を多角的に取り上げる視点を身に付け、多様な宗教現象に関する資料の読解力を身に付ける。宗教人類学に関連する古典的著作を読み解く。ボアズ、ギアツなどの著作を取り上げる。	西暦偶数年度開講。 OABAAL5と同一。 対面
02DBJ68	宗教学II(3)A	1	1.0	1・2			西洋古代の宗教思想を起点にして、哲学・思想の諸領域に徹底した思考力と発想力を養う。そのために、この学期は新プラトン主義と呼ばれる西洋古代の思想を一つの題材として、哲学と宗教が交錯したその内容と様相を捉えながら、後世への多様な影響について検討する。	西暦偶数年度開講。 OABAAM0と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBJ69	宗教学II(3)B	1	1.0	1・2			西洋古代の宗教思想を起点にして、哲学・思想の諸領域に徹底した思考力と発想力を養う。特に、新プラトン主義と呼ばれる西洋古代の思想から、魂や身体、それらをめぐる儀礼といったテーマに特に着目して、哲学と宗教の交錯について具体的な考察を行う。	西暦偶数年度開講。 OABAAM1と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBJ72	宗教学実習(3)	3	2.0	1・2			現代日本社会における伝統宗教の現状を実地調査を通して、宗教現象の実情に触れる。下記の一連の流れを通して、実地調査をする。(事前学習 実地調査 報告会 報告書作成)	西暦偶数年度開講。 OABAAPAと同一。 対面
02DBJ75	宗教思想史I(3)A	1	1.0	1・2			11~12世紀に書かれたインド仏教知識論の綱要書を原典講読し、その基本概念を理解するとともに、サンスクリットで書かれた哲学書の読解方法を学ぶ。モークシャーカラグプタ著『論理のことは』(第1章)を読みながら、仏教知識論における認識論の基本概念を解説する。	西暦偶数年度開講。 OABAAR0と同一。 対面
02DBJ76	宗教思想史I(3)B	1	1.0	1・2			11~12世紀に書かれたインド仏教知識論の綱要書を原典講読し、その基本概念を理解するとともに、サンスクリットで書かれた哲学書の読解方法を学ぶ。モークシャーカラグプタ著『論理のことは』(第2章)を読みながら、仏教知識論における推理論の基本概念を解説する。	西暦偶数年度開講。 OABAAR1と同一。 対面
02DBJ79	宗教思想史I演習(3)A	2	1.0	1・2			サンスクリット語で書かれたインド仏教知識論の基本文献を原典講読し、研究の方法論を習得するとともに、その内容を深い次元で理解することを目指す。プラジュニャーカラグプタ著『量評釈狂戯』(第2章「知覚」章)の講読演習。	西暦偶数年度開講。 OABAAR4と同一。 対面
02DBJ80	宗教思想史I演習(3)B	2	1.0	1・2			引き続き、インド古典におけるバラモン教の思想を、サンスクリット語原典の哲学文献のテキストの精読を通じて考察する。原典講読については、論敵の原典も参照し、可能な限り写本等の一次資料も参照する。サンスクリット語の語学力を養うと同時に、テキスト校訂の手法、議論する力を磨く。	西暦偶数年度開講。 OABAAR5と同一。 対面
02DBJ83	宗教思想史II(3)A	1	1.0	1・2			インドの仏教思想について原典によって学び、考察する。サンスクリット語、パーリ語で書かれたインドの仏教論書のテキストを講読し、語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。とくに存在論、認識論を中心とした哲学的主題を議論する。	西暦偶数年度開講。 OABAAS0と同一。 対面
02DBJ84	宗教思想史II(3)B	1	1.0	1・2			チベットの仏教思想について原典によって学び、考察する。チベット語で書かれた仏教論書のテキストを講読し、語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。とくに中観思想の帰謬論証に焦点をあてて議論する。	西暦偶数年度開講。 OABAAS1と同一。 対面
02DBJ87	宗教思想史II演習(3)A	2	1.0	1・2			サンスクリット語等で記された原典、ならびに関連する諸研究の読解を通じて、インド仏教の思想を学ぶ。特に説一切有部の文献と思想を対象とする。	人社会学棟B806で実施 西暦偶数年度開講。 OABAAS4と同一。 対面
02DBJ88	宗教思想史II演習(3)B	2	1.0	1・2			サンスクリット語等で記された原典、ならびに関連する諸研究の読解を通じて、インド仏教の思想を学ぶ。特にインド仏教最後期に属する綱要書とそこで紹介される諸々の教理を対象とする。	西暦偶数年度開講。 OABAAS5と同一。 対面

02DBJ91	宗教思想史III(3)A	1	1.0	1・2						インド古典におけるバラモン教の思想について、主にサンスクリット語原典の哲学文献のテキストの読解を通じて考察する。テキスト校訂の方法論も学びながら、文献実証的な精読を心がける。サンスクリット語の語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。	西暦偶数年度開講。 OABAAT0と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBJ92	宗教思想史III(3)B	1	1.0	1・2						引き続き、インド古典におけるバラモン教の思想を、サンスクリット語原典の哲学文献のテキストの精読を通じて考察する。原典講読については、論敵の原典も参照し、可能な限り写本等の一次資料も参照する。サンスクリット語の語学力を養うと同時に、テキスト校訂の手法、議論する力を磨く。	西暦偶数年度開講。 OABAAT1と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBJ95	宗教哲学演習(3)A	2	1.0	1・2						古典的な宗教哲学の一例であるカントの宗教哲学に関するテキスト(オリジナルおよび翻訳)を精読しつつ、現代のドイツ語圏・英語圏の研究者、さらには日本の研究者によるコメントリーや論放にも目を通して、そこで取り扱われている問題について受講者全員で議論しつつ検討する。このことを通じて、カントの生きた時代にキリスト教という宗教がどのように理解されていたか考察するとともに、現代人はそこから何を学ぶのかとも考える。特にこのAの授業では、カントが宗教的信仰をどのように理解し、当時のキリスト教信仰をどのように批判していたかに注目する。	西暦偶数年度開講。 OABAIV4と同一。 対面
02DBJ96	宗教哲学演習(3)B	2	1.0	1・2						古典的な宗教哲学の一例であるカントの宗教哲学に関するテキスト(オリジナルおよび翻訳)を精読しつつ、現代のドイツ語圏・英語圏の研究者、さらには日本の研究者によるコメントリーや論放にも目を通して、そこで取り扱われている問題について受講者全員で議論しつつ検討する。このことを通じて、カントの生きた時代にキリスト教という宗教がどのように理解されていたか考察するとともに、現代人はそこから何を学ぶのかとも考える。特にこのBの授業では、カントがキリスト教の教義である原罪論と人間の悪をいかに理解していたかに注目する。	西暦偶数年度開講。 OABAIV5と同一。 対面
02DBM60	宗教学I(4)A	1	1.0	1・2	春AB	水3	木村 武史			宗教学の中における神話研究の問題を取り上げる。特に、歴史と神話の関係に関わる諸問題を考察する。継承される神話形式と生成する神話との相互関係、現代社会における文字化された神話と口承伝承の神話との相互関係などを取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAAL2と同一。 対面
02DBM61	宗教学I(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	水3	木村 武史			宗教学における神話研究の問題を取り上げる。特に、政治・権力と神話の関係に関わる諸問題を考察する。神話と象徴は政治権力に権威を与えるとともに、その権力の行使に正当性を付与する。また、社会における諸問題を隠蔽することもある。これらの諸問題を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAAL3と同一。 対面
02DBM64	宗教学I演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	水2	木村 武史			宗教現象を多角的に取り上げる視点を身に付け、多様な宗教現象に関わる資料の読解力を身に付ける。宗教現象学に関連する古典的著作を読み解く。オットー、エリアーデなどの著作を読解する。	西暦奇数年度開講。 OABAAL6と同一。 対面
02DBM65	宗教学I演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	水2	木村 武史			宗教現象を多角的に取り上げる視点を身に付け、多様な宗教現象に関わる資料の読解力を身に付ける。宗教社会学に関連する古典的著作を読み解く。デュルケム、ウェーバーなどの著作を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAAL7と同一。 対面
02DBM68	宗教学II(4)A	1	1.0	1・2	春AB	火5	土井 裕人			哲学・思想の研究を新しい領域にも広げるため、人文情報学(デジタル・ヒューマニティーズ)の手法について、最新の動向も取り上げながら学ぶ。この学期は、確立された手法やシステムを主に取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAAM2と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBM69	宗教学II(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	火5	土井 裕人			哲学・思想の研究を新しい領域にも広げるため、人文情報学(デジタル・ヒューマニティーズ)の手法について、最新の動向も取り上げながら学ぶ。この学期は、新たに提案されつつある手法を含めて取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAAM3と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBM72	宗教学実習(4)	3	2.0	1・2	春季休業中	応談	木村 武史			現代社会における新宗教の現状を实地調査を通して学ぶ。宗教現象の実情に触れる。下記の一連の流れを通して、实地調査をする。(事前学習 实地調査 報告会 報告書作成)	西暦奇数年度開講。 OABAAPBと同一。 対面
02DBM75	宗教思想史I(4)A	1	1.0	1・2	春AB	金5	志田 泰盛			インド古典のサンスクリット語原典の哲学文献を講読する。原典については、可能な限り写本等の一次資料も参照し、文献実証的な精読を心がける。サンスクリット語の語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。	西暦奇数年度開講。 OABAAR2と同一。 対面
02DBM76	宗教思想史I(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	金5	志田 泰盛			引き続き、インド古典のサンスクリット語原典の哲学文献を講読する。古典テキストの批判校訂の方法論についてはインド学以外の方法論も吟味する。サンスクリット語の語学力を養うと同時に、テキスト校訂の手法、議論する力を磨く。	西暦奇数年度開講。 OABAAR3と同一。 対面

02DBM79	宗教思想史I演習(4)A	2	1.0	1・2						ディグナーガ及び彼以前の仏教論理学の基本文献を原典講読し、研究の方法論を習得するとともに、その内容を深い次元で理解することを旨とする。サンスクリット語と漢訳による諸文献の講読演習。	西暦奇数年度開講。 OABAA6と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBM80	宗教思想史I演習(4)B	2	1.0	1・2						ディグナーガ及び彼以前の仏教論理学の基本文献を原典講読し、研究の方法論を習得するとともに、その内容を深い次元で理解することを旨とする。漢文による註釈書の講読演習。	西暦奇数年度開講。 OABAA7と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBM83	宗教思想史II(4)A	1	1.0	1・2						インドの仏教思想について原典によって学び、考察する。サンスクリット語、パーリ語で書かれたインドの仏教論書のテキストを講読し、語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。とくに論理的推論の構造と方法について議論する。	西暦奇数年度開講。 OABAAS2と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBM84	宗教思想史II(4)B	1	1.0	1・2						チベット語で書かれた仏教論書のテキストを講読し、語学力を養うと同時に、哲学的考察力、議論する力を磨く。とくに中観思想と論理学の融合について議論する。	西暦奇数年度開講。 OABAAS3と同一。 2025年度開講せず。 対面
02DBM87	宗教思想史II演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	木6		横山 剛		サンスクリット語等で記された原典、ならびに関連する諸研究の読解を通じて、インド仏教の思想を学ぶ。特に大乘中観派の文献と思想を対象とする。	西暦奇数年度開講。 OABAAS6と同一。 対面
02DBM88	宗教思想史II演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	木6		横山 剛		サンスクリット語等で記された原典、ならびに関連する諸研究の読解を通じて、インド仏教の思想を学ぶ。特に大乘瑜伽行派の文献と思想を対象とする。	西暦奇数年度開講。 OABAAS7と同一。 対面
02DBM91	宗教思想史III(4)A	1	1.0	1・2	春AB	木5		平野 貴大		シーア派の第二聖典であるハディース集の読解を通じて、シーア派を中心にイスラーム思想を考察する。シーア派の中で最も権威あるクライニー（941年没）のハディース集のアラビア語原典と英訳を配布し読解する。	西暦奇数年度開講。 OABAAT2と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBM92	宗教思想史III(4)B	1	1.0	1・2	秋AB	木5		平野 貴大		シーア派の第二聖典であるハディース集の読解を通じて、シーア派を中心にイスラーム思想を考察する。シーア派の中で最も権威あるクライニー（941年没）のハディース集のアラビア語原典と英訳を配布し読解する。秋学期は前期の続きから進めることとする。	西暦奇数年度開講。 OABAAT3と同一。 対面(オンライン併用型)
02DBM95	宗教哲学演習(4)A	2	1.0	1・2	春AB	月6		保呂 篤彦		20世紀の英語圏を代表するキリスト教神学者・宗教哲学者の一人であるJ・ヒックの宗教哲学的テキスト(オリジナル)の精読を通して、現代の英語圏の宗教哲学で議論されている主要な問題のうちのいくつかに関する基本的な知識を習得する。また、そのうち、特に、宗教批判の諸理論への応答と宗教認識論をめぐる諸問題について、受講者全員で各人がもつ宗教と哲学に関する知識を基に議論・検討することによって宗教哲学の問題を考察し議論する力を身につける。	西暦奇数年度開講。 OABAIV6と同一。 対面
02DBM96	宗教哲学演習(4)B	2	1.0	1・2	秋AB	月6		保呂 篤彦		20世紀の英語圏を代表するキリスト教神学者・宗教哲学者の一人であるJ・ヒックの宗教哲学的テキスト(オリジナル)の精読を通して、現代の英語圏の宗教哲学で議論されている主要な問題のうちのいくつかに関する基本的な知識を習得する。また、そのうち、「宗教多元主義」をめぐる諸問題について、受講者全員で各人がもつ宗教と哲学に関する知識を基に議論・検討することによって宗教哲学の問題を考察し議論する力を身につける。	西暦奇数年度開講。 OABAIV7と同一。 対面